

# 業務用キャベツにおける減肥栽培技術の確立

農業試験場 主査研究員 橋本 真穂

## 【要約】

低コスト栽培が求められる業務用キャベツにおいて、セル内リン酸施肥と定植前リン酸苗施用によるリン酸減肥栽培について検討したところ、キャベツ定植前の薬剤灌注時に定植前リン酸苗施用を行うことで、本圃での無リン酸栽培が可能となり、肥料費は約25%削減できた。

## 【背景・ねらい】

業務用野菜は常に一定の価格で取引されることから農家経営の安定が期待されるが、所得向上のためには多収、省力、低コスト栽培が求められる。そこで、業務用キャベツの低コスト栽培技術を開発するため、和歌山県に適したセル内リン酸施肥技術や定植前リン酸苗施用技術を活用したリン酸減肥栽培技術について検討した。

## 【成果の内容・特徴】

1. 培土にあらかじめリン酸資材を混合して育苗を行うセル内リン酸施肥法では慣行育苗に比べ発芽の遅れや発芽率の低下がみられ、定植時の苗は小さくなった(図1)。
2. 定植前の苗をリン酸溶液に浸漬または灌注する定植前リン酸苗施用を行うと、培土中の可給態リン酸量は、定植前リン酸苗施用(1L/トレイ灌注) > 定植前リン酸苗施用(浸漬) > 定植前リン酸苗施用(0.5L/トレイ灌注) > 慣行の順に多くなった。
3. 土壌の可給態リン酸量が少ない水田、多い普通畑のいずれにおいても、セル内リン酸施肥または定植前リン酸苗施用を行うと、本圃でリン酸無施用としてキャベツ栽培が可能であった(図2)。
4. キャベツ栽培において、定植前の薬剤灌注と同時に定植前リン酸苗施用を行うことでリン酸減肥が可能となり、肥料費は約25%削減できた。

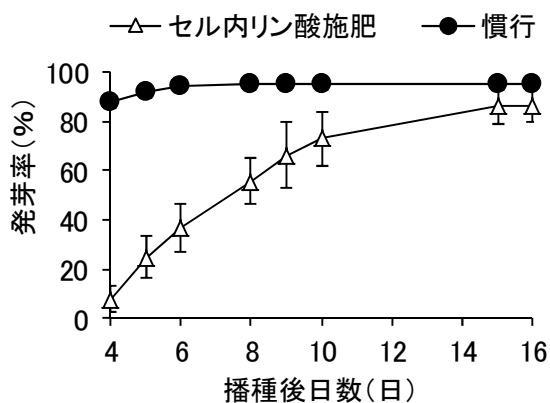


図1 育苗方法がキャベツ発芽率に及ぼす影響

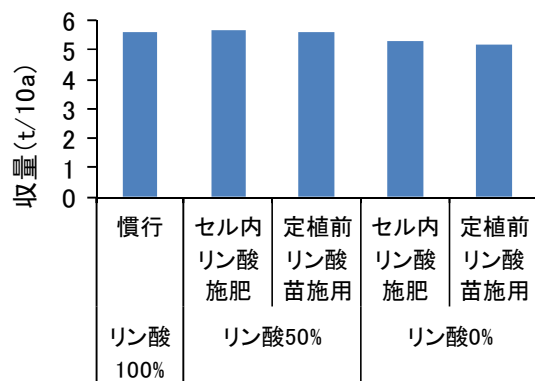


図2 育苗方法とリン酸施肥量がキャベツ収量に及ぼす影響(水田)